

平成29年度 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 サービス評価表

1. 事業所情報

事業所番号	1490500327	事業開始年月日	平成28年2月1日
法人名	社会福祉法人 横浜太陽会		
事業所名	おひさまネット24		
事業所所在地	(232-0061)		
	横浜市南区大岡5-14-21		
電話番号	045-315-7779	FAX番号	045-315-5005
施設等の区分	一体型	サービス提供地域	南区
自己評価作成日	平成30年2月22日		

3. 法人・事業所の特徴

法人の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームをはじめとし、地域に様々な介護保険サービスを展開している。 ・地域住民との関わりが深く、年間述べ600名以上の地域ボランティアが活動している。 ・地域包括支援センター開設前より、インフォーマルサービスとの関わりがあり、地域の高齢者・障害者への支援に取り組み続けている。 ・訪問看護ステーションを運営しており、医療・介護の連携強化を図っている。
事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・一体型運営であり、介護看護連携が密であること。 ・介護職員が喀痰吸引3号研修を修了しており、中重度者の対応に備えていること。ICT化をすすめ、業務の効率化や連携が図られていること。 ・同一法人に小規模多機能型居宅介護があり、地域の認知症ケアに実績があること。 ・法人が地域に根ざしており、介護保険外のインフォーマルサービスとのつながりがあること。

2. 介護・医療連携推進会議

介護・医療連携推進会議への公表日	平成30年3月27日
開催場所	特別養護老人ホーム白朋苑 会議室

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほぼできてい	こできてが多いない	な全くできてい		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]								
(1) 理念の明確化								
サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				制度上の位置付けを理解し、理念を掲げている。	
(2) 適切な人材の育成								
専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している		○			職員研修の実施。	
	3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している			○		入職時に個別に業務ソフトを用いて研修を行っている。また、オペレーター電話の席に電話対応例一覧を用意し、対応方法を職員に周知している。外部講師による研修を予定。	
	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				職員の資格や経験を考慮し、勤務体制を組んでいる。	
介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				一体型の訪問看護ステーションが同一建物内にあり、介護看護間の意思疎通を密にしている。	アンケートにもあったが職員間の情報共有化は今後の課題。見直しが必要と思われる。
(3) 適切な組織体制の構築								
組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	○				同性介護を希望される場合や、利用者の身体状況に応じて、熟練した職員の配置や2人対応を検討している。	
介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	○				会議内容は事業所内だけでなく、法人全体で把握している。地域性を踏まえ、できる限り会議内容が反映されるよう調整している。	
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備								

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほ ぼで きてい	こと がど い	な全 い く で きてい		
利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			クラウド管理のICT機器を使用し、情報共有を行っている。	訪問看護だけでなくケアマネとも情報共有をお願いしたい細々とした情報も記録を閲覧し状況把握できると良い。 サイボウズを使ってはどう
(5) 安全管理の徹底								
職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○			各種マニュアル、研修にて対応を行っている。車両事故に備え、安全運転講習会を実施する。	
利用者等に係る安全管理	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○				個人情報保護マニュアルの作成と研修を行っている。	
II 過程評価 (Process)								
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供								
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成								
利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている		○			看護からは身体上必要な生活リズムを、介護からは習慣的なものの重視をし、すり合わせながら調整している。	
	12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				看護師によるアセスメントを毎月行い、職員間で共有している。	スマケアで情報共有できている。
利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			地域の多職種の意見をもらいながら、様々な計画を試みている。	
	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			医療介護連携を強め、常に予防を重視した計画が作成できるよう留意している。	
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し								

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほ ぼ でき て い	こ ど き が 多 い な い	な 全 く で き て い		
計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				身体状況や介護状況に応じた計画の変更や、随時対応を行っている。サービス実施日、時間等の調整を適宜している。	訪問介護員の誰が来るのか分からないため、週間スケジュールのようなものを提供してはどうか。
継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている		○			状況変化を認めた際や、今後予測されると把握した際には、ケアマネや家族と連携し計画変更等の提案・実施を行っている。	

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほ ぼでき てい	でき てい ない	全 く でき てい		
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供								
介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている	○				ICT化されており、情報は常に更新され共有している。事業所も同一建物内にあるため、直接の情報交換もしやすい環境にある。	細かいケアのやり方が統一されていないことがあるようなので、情報共有が必要である。
看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				同上。必要に応じて看護職の訪問も柔軟に調整しており、看護からの助言は適宜受けられている。	
(4) 利用者等との情報及び意識の共有								
利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			契約時や担当者会議などの場で、パンフレット等を用いて行っている。看護のアセスメントの内容をケアマネと本人・家族に伝え、機能の維持回復に努めている。	
利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	○				事業特性の説明と共に、従前の生活スタイルを基にした課題解決への提案をしている。相互理解の中での計画提案をしている。	アンケートでは、分からないという回答があった。もう少し丁寧な説明が必要なのか検討が必要と思われる。
	21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				家族には必要であれば直接の報告相談をしており、ケアマネにも同様に行っている。	
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント								
(1) 共同ケアマネジメントの実践								
利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				ケアマネとは常に連携し、ケアプランに基づいたサービス提供を行っている。プラン変更時のみでなく、適宜相談の上、サービス提供に日時を調整している。	
	23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	○				自法人の包括支援センターからの情報や、地域の連絡会等に出席しインフォーマルサービスの導入提案に努めている。	

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほ ぼで きて い	でき てい ない	全 く でき てい ない		
定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				サービス担当者会議には必ず出席し、サービス提供状況の報告を行い、意見を仰いでいる。	
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献								
利用者の在宅生活の継続に必要となる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)		○			サービス担当者会議や連携推進会議での検討を行っている。	
	26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	○				退院時カンファや退所時カンファには出席し、入院・入所中の状況把握や目標の継続が行われるよう連携している。	
多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)			○		医師会の事例検討会やケアマネ連絡会などで事例発表をし、多職種から意見を仰いでいる。 フォーマル・インフォーマルでの連携や役割分担についても、地域性を重視し取り組ん	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画								
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案								
介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		迅速にホームページで公開している。	
	29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	○				ケアマネ事業者団体や南区在宅療養支援ネットワーク会総会での周知活動を行った	
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画								
行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	○				勉強会や説明会に出席し、理解に努めている。自法人の包括支援センター職員にも助言を求めている。	

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	るほぼできている	できていない	全くできていない		
サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				南区全域をエリアとし、訪問を行っている	
安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている(※任意評価項目)			○		インフォーマルサービスの利用なくしては在宅継続が困難なケースもあり、地域住民の会合や、地福計画を参考にネットワーク作りに努めている。連携介護でも、地域の有識者等の参加を依頼している。	
Ⅲ 結果評価 (Outcome)								
サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○			本人・家族・ケアマネとアセスメントし、達成度とその後の調整を行っている。	
在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				コール端末の使用方法は繰り返し説明し、デモを行い随時対応の説明をしている。	アンケートにもあったが、ほとんどのご家族が満足されていた。今後も継続して実施したい。